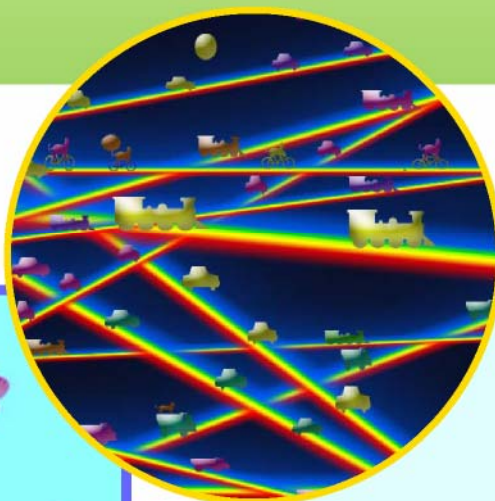


千葉の「道」

平成16年度

アウトカム・レポート



表紙：千葉養護学校生徒、四街道養護学校生徒



平成17年度

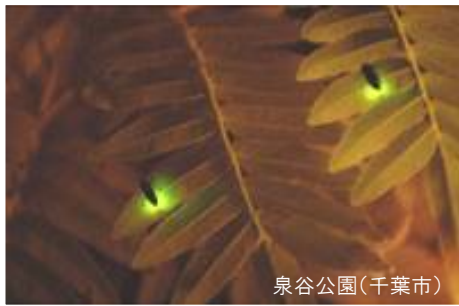
千葉県アウトカム・プラン策定委員会



谷津干潟(習志野市)



千葉都市モノレール



泉谷公園(千葉市)



東京湾アクアライン

千葉県の新たな『道づくり』に向けて

千葉県では平成15年度から「成果主義」の道路行政マネジメントシステムを導入し、千葉県アウトカム・プラン策定委員会において、目指す成果を県民の生活実感にあったアウトカム指標について議論を重ね、平成16年度のアウトカム・プランは10の指標からなる「千葉の『道』アウトカム・プラン」を策定したところであります。

この度、本委員会において本プランに基づいて実施してきた結果、京成本線（船橋駅付近）連続立体交差事業、美浜長作町線幕張昆陽地下道事業等によって踏切解消による交通円滑化が果たされました。

平成16年度アウトカム・プランの10の指標のうち、成果を示せる以下の指標について、その達成度を評価し、「アウトカム・レポート」（達成度報告書）を作成しました。

- ①渋滞による損失
- ②自動車専用道路分担率
- ③踏切解消による交通円滑化
- ④バリアフリー化率
- ⑤無電柱化率
- ⑥交通事故
- ⑦道路構造物保全率
- ⑧県都1時間構想達成率
- ⑨首都圏中心部と観光・漁業拠点間の所要時間

特に、館山自動車道の富津中央IC～富津竹岡IC間が開通したことにより、首都圏中心部と観光・漁業拠点間の連携が以前より強化されました。

また、踏切解消によって一般道、幹線道路とのネットワーク機能向上が図られることになりました。

本委員会は評価した結果を有効に活用し、県民と行政とのパートナーシップの確立により「マネジメント・サイクル」の構築と、透明性の確保や効率性の向上のため、道路利用者である県民に着実な「成果」が見え、実感できる行政の実現を目指しているところであります。

どうぞこの主旨を御理解いただき、県民の皆様の御協力の程よろしくお願い申し上げます。

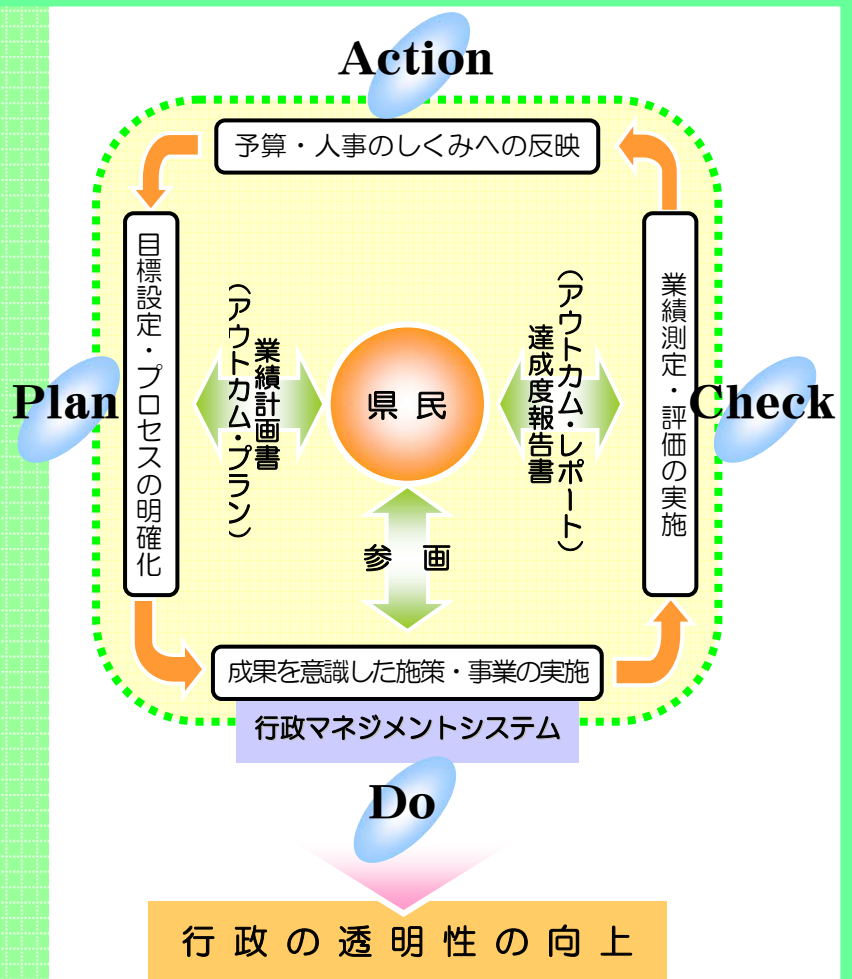
千葉県アウトカム・プラン策定委員会

委員長 **榛澤 芳雄**

目 次

アウトカム・レポート策定の目的	3
アウトカム・レポートの対象	3
道路整備の7つの方針	4
指標と事業一覧	5
事業の位置	6
①渋滞による損失	7
②自動車専用道路交通分担率	8
③踏切解消による交通円滑化	9
④バリアフリー化率	11
⑤無電柱化率	12
⑥交通事故	13
⑦道路構造物保全率	14
⑧県都1時間構想達成率	15
⑨首都圏中心部と観光・漁業拠点間の所要時間 ..	16
用語解説	18





行政の透明性の向上

行政の効率性の向上

アウトカム・レポート策定の目的

千葉県では、道路行政をアウトカム(成果)指標に基づいた運営方式に転換することとし、「千葉の『道』アウトカム・プラン」を平成15年度から毎年、策定しています。

そして、昨年度(平成16年度)のプランに対して、その業績を分析・評価するため、この平成16年度「千葉の『道』アウトカム・レポート」を策定しました。

厳しい財政状況の中、関係機関が一体となって豊かな県民生活の実現や安全性・利便性を確保するため、このレポートを今後の施策・事業に反映させていきます。

アウトカム・レポートの対象

平成16年度アウトカム・レポートが取り上げる事業は、基本的にアウトカム・プランで取り上げ、効果を予測した事業です。その事業のうち、平成16年度中に完成し、効果の検証に必要なデータを得られたものについて評価します。



不動滝(鴨川市)

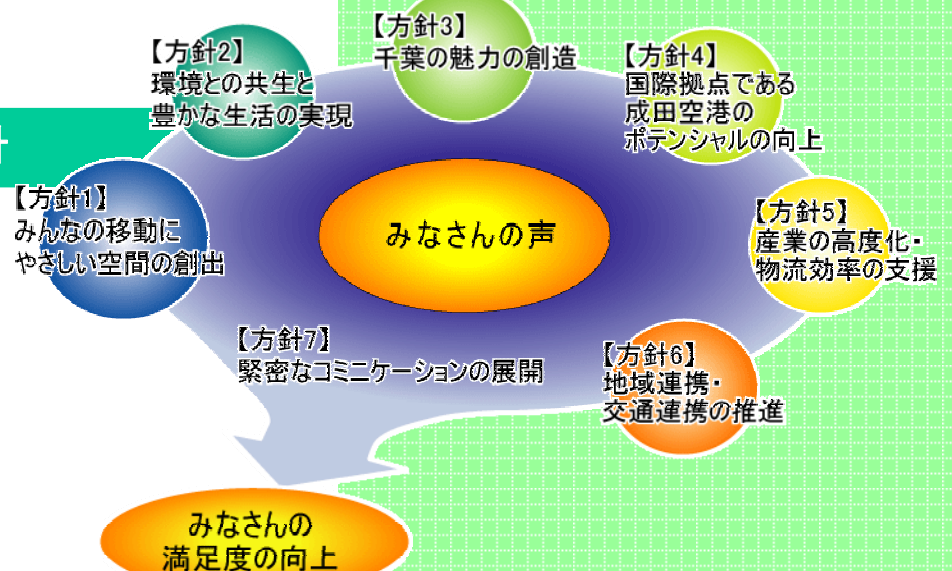


ルーミスジミ(君津市)



三島神社(君津市)

道路整備の7つの方針



方針1 みんなの移動にやさしい空間の創出

バリアフリー化の促進
子供を産み育てやすい生活環境の創出
交通事故削減
安心して生活できる街づくり
既存トンネル・橋梁のメンテナンス強化による
信頼性の向上

方針2 環境との共生と豊かな生活の実現

自然環境との共生
生態系への配慮
交通円滑化による環境改善

方針3 千葉の魅力の創造

観光の促進と観光渋滞の緩和
多様な観光ニーズへの対応
中心市街地の活性化と魅力ある街づくり

方針4 国際拠点である成田空港のポテンシャルの向上

成田空港へのアクセス向上
空港近接の有利性を活かした産業の振興

方針5 産業の高度化・物流効率化の支援

都市圏交通の円滑化
ETCの普及促進
地域産業クラスター形成の支援
空港・港湾や物流拠点の連携強化による物流効率化の支援

方針6 地域連携・交通連携の推進

交通結節点における利便性向上
市町村合併の支援
首都圏各地との広域連携の強化

方針7 緊密なコミュニケーションの展開

十分な情報公開とみなさんの意見の反映
道路標識を含めた情報提供の充実
IT(情報技術)の活用による安心して運転できる道路の整備

「道路整備の7つの方針」と 「千葉の『道』アウトカム・プラン」

平成14年度、有識者による「千葉県地方道路整備計画懇談会」が開かれ、「道路整備の7つの方針」が提言されました。

これらの方針に沿って道路整備を進めていくにあたり、その整備効果をわかりやすく、定量的に説明するための指標が必要です。

そこで策定されたのが整備効果の数値目標を明らかにした「千葉の『道』アウトカム・プラン」です。

※「千葉県地方道路整備計画懇談会」

国や千葉県、千葉市等の道路整備事業主体に対し、県民の立場から、これからの道路網整備の方針について提言することを目的として開催されました。

懇談会の委員は学識経験者等、民間の有識者を中心に構成されています。

指標と事業一覧

平成 15 年度に、千葉の道づくりの効果をはかるための、アウトカム指標の選定、および、その目標値を設定する「千葉の『道』アウトカム・プラン」を策定しました。

本レポートでは、「千葉の『道』アウトカム・プラン」に掲載された事業のうち、平成 16年度に実施された事業について紹介するとともに、各事業によってもたらされた「アウトカム（整備効果）」の実績値を示します。

注：目標値は概算値

テーマ	指標となる項目	代表的な事業	項目	単位	平成15年度 の実績値	平成16年度の成果（※2）			最終目標値 （※3）
						目標値	実績値	達成状況	
活 力	① 渋滞による損失	1 国道357号 千鳥町・高浜（海側）立体整備	事業箇所周辺の 渋滞損失金額	億円/ km年	4.8	整備中			3
		2 湾岸千葉地区改良	事業箇所周辺の 渋滞損失金額		17.9	整備中			5
		3 東京外かく環状道路 （松戸～市川 間:12.1km）	（一）松戸原木線の 渋滞損失金額		9.7	整備中			4
			（主）市川松戸線の 渋滞損失金額		5.6	整備中			1
	② 自動車専用道路 交通分担率	1 館山自動車道 （16.8km）	南房総ゾーンの 自専道分担率	%	1.2	1.6	1.6	目標 達成	1.6 （※4）
	③ 踏切解消による 交通円滑化	1 京成本線（船橋駅付近） 連続立体交差事業	踏切遮断時間	分/ ピーク 時	27	16	16	目標 達成	0
		2 新京成線（新鎌ヶ谷駅付近） 連続立体交差事業			28	整備中			0 （H22）
3 美浜長作町線 幕張昆陽地下道事業		51			0	0	目標 達成	0	
暮 ら し	④ バリアフリー化率	1 千葉市道路特定事業	バリアフリー 整備延長累計	km	10.9	－	14.7	整備中	50.9 （H22）
			特定経路 バリアフリー化率	%	21	－	29	整備中	100 （H22）
	⑤ 無電柱化率	1 無電柱化推進計画	電線類地中化計画 延長に対する 達成率	%	59	－	62	整備中	79 （H20）
安 全	⑥ 交通事故	1 湾岸千葉地区改良	事業箇所周辺の 年間死傷事故率	件/ 億台km	194	整備中			1割抑止
		2 国道127号 島戸倉トンネル	国道127号の トンネル周辺 死傷事故密度	件/km	4.5	4.0	4.0	目標 達成	4.0
		3 国道127号 勝岩トンネル							
	（※1）生活道路の安全	1 あんしん歩行エリアの整備	指定エリア内 死傷事故件数	件	約12,000 （H11～H13合 計）	整備中			2割抑止
			指定エリア内 歩行者または自転車 に係わる死傷事故件数	件	約4,300 （H11～H13合 計）				3割抑止
⑦ 道路構造物保全率	1 橋梁の耐震補強	橋梁の耐震補強 完了率	%	73	75	75	目標 達成	100 （H18以降）	
千 葉 県 独 自 設 定 指 標	⑧ 県都1時間構想 達成率	1 館山自動車道 （16.8km）	千葉県における 県都1時間構想 達成率	%	60	60	60	整備中	65
		2 銚子連絡道路 （松尾町～光町:6.1km）							
	⑨ 首都圏中心部と 観光・漁業拠点間 の所要時間	1 館山自動車道 （16.8km）	川崎～館山 間の 所要時間	分	95	90	90	目標 達成	69 （※4）
		2 首都圏中央連絡自動車道 （茂原～木更津間:28.5km）	川崎～一宮 間の 所要時間		84	整備中			67 （※4）
		3 長生グリーンライン （0.7km）							
4 銚子連絡道路 （松尾町～光町:6.1km）		川崎～銚子 間の 所要時間	136		整備中			130 （※4）	

（※1）生活道路の安全：「あんしん歩行エリア」は現在事業中のため評価できない。よって、本レポートでは取り上げていない。

（※2）H16年度の成果：目標値および実績値を記載していない事業は、供用後に整備効果の検証を行う予定。

（※3）最終目標値：平成19年までを対象。ただし（）は例外。（※4）は個別に発表予定。